

早慶大世界史



目次

はじめに	2
14章 ウィーン体制	4
15章 19世紀のイギリス・フランス・ロシア	24
16章 ドイツ・イタリアの統一	42
17章 南北アメリカの発展	64
18章 近代のアジア I	80
19章 近代のアジア II	96
20章 帝国主義	110
21章 近代のアジア III	132
22章 第一次世界大戦	150
23章 戦間期の欧米	170
24章 戦間期のアジア	190
25章 第二次世界大戦までの国際情勢	204
26章 第二次世界大戦	220

はじめに

1. Z会の教室 地歴の指導方針

受験地歴とは用語や年号を機械的に丸暗記すること、というイメージを持っている人はいませんか。確かに受験地歴では多くの知識が必要ですが、それ以上に、歴史的・地理的な事件や事象が生じた理由・背景・展開・メカニズム・プロセスを大きな流れの中で理解することが重要です。Z会の地歴講座では、教科書の知識を平坦に解説していくのではなく、各大学で問われやすいテーマ・視点という観点から歴史・地理の本質を捉える講義を行います。また、単純な知識のつめこみではなく、基礎知識を運用する思考力、またその運用のプロセスを答案に表す表現力の養成を重視した指導を行います。

地歴を学習するということは、現代の日本・世界や、そこで生じる社会現象を理解・考察していくことにつながります。当講座での学習が志望校合格の一助になるとともに、結果として「歴史・地理を通じて考える」という姿勢を養う手がかりになれば幸いです。

2. 授業について

予習

予習は必須ではありませんが、テキストに予め日を通し、流れや内容がわかりにくいと思う場所にチェックを入れた上で授業に臨めば、授業をより深く理解することが出来ます。

授業内

授業は、通史を詳細まで確実に理解し、難関大世界史入試に対応できる力を身に付けることを目的としています。皆さんが入試本番までに理解しておくべきポイントを厳選して扱っていますから、授業で扱った内容をすべて自分のものにできるように、メモを取りながら積極的に授業を受けることをお勧めします。

復習

復習は理解の鮮明なうちに行いましょう。その日に扱った内容のテキスト・ノートを確認し、不明点がないかを確認しましょう。ノートを見直して流れを理解するとともに、テキストに掲載している問題を解き、解答・解説を読み込んで、用語が覚えられているかチェックしておくとともに力がつきます。

3. テキストの構成

●要点

その回で扱う内容をまとめたものです。

●問題

その回に扱った内容に関連する問題です。必ずしも授業内で扱うとは限りませんので、別途配布する「解答」とあわせて自習や復習に活用してください。

●問題のレベルについて

Z会の教室のテキストでは、問題のレベルを★の個数によって3段階で表します。

★：基礎

★★：標準

★★★：応用（発展）

※映像授業をご受講の皆様

- ・ 映像で問題演習の指示が出たら、映像を停止して問題に取り組みましょう。
- ・ 授業をご受講いただく前に、各講座のオリエンテーション映像をご覧ください。

問題

【1】

《ウィーン体制I》★★

19世紀の欧米諸国に関する次の設問に答えよ。

支配秩序を固定したとみなされた体制が、各国内で忠誠から反逆への転換が起こったために、大激動がないままに動揺していく例として、ウィーン体制がある。次の問1～5に答えよ。

1. ドイツではブルシェンシャフトという組織が反体制活動を始めたが、その中心となったのはどんな人たちか、しるせ。
2. イタリアではカルボナリ党が反抗運動を起こした。
 - i. 「カルボナリ」の意味をしるせ。
 - ii. 1820年に党はナポリで革命を起こしたが、この時ナポリはどの勢力に所属していたか。次のa～dから1つ選び、その符号を記せ。
 - a. サヴォイヤ家 b. ハプスブルク家 c. ブルボン家 d. ローマ教皇
3. ロシアでもデカブリストが専制に反対した。
 - i. デカブリストの中心的担い手はどんな人たちか、しるせ。
 - ii. 彼らが反専制運動に立ち上がるには、原点となるある体験が必要であった。その体験とはなにかをしるせ。
4. ウィーン体制の破綻を象徴するのがオスマン帝国からのギリシアの独立である。
 - i. ギリシア支援の艦隊がオスマン帝国側の艦隊を打ち破った海戦の名称をしるせ。
 - ii. オスマン帝国はアドリアノーブル条約（1829年）でギリシア独立を承認したが、この条約を締結したもう一方の当事国の名をしるせ。
5. ウィーン体制を外から動揺させた要因の1つとしてラテン=アメリカ諸国の独立があるが、大コロンビア共和国樹立に中心的役割をはたした指導者を次のa～dから1つ選び、その符号をしるせ。
 - a. イダルゴ b. サン=マルティン c. シモン=ボリバル
 - d. フランシスコ=ミランダ

（立教大文【3】A一部改・1995年）

【2】

《ウィーン体制Ⅱ》★★

以下の文章を読んで設問に答えよ。

①ナポレオン戦争によって混乱したヨーロッパの秩序を再建するため、1814年から1815年にかけてオーストリアのウィーンで会議が開かれた。この会議は保守反動、正統主義を理念に掲げ、②フランス革命を通じてヨーロッパ全体に広まった自由主義・国民主義的運動を抑圧することを目指していた。会議は各国の利害関係の調整に手間取って長引いたが、ようやく1815年6月に③ウィーン議定書が調印され、19世紀前半を支配する国際体制、いわゆるウィーン体制が確立された。

しかしこの保守反動体制は、自由主義・国民主義への大きな流れを押しとどめることが出来ず、次第に破綻していく。そのきっかけとなったのが、新大陸における④ラテン＝アメリカ植民地の独立運動であった。ラテン＝アメリカのスペイン・ポルトガル植民地は、本国の重商主義政策のもとで搾取、差別的支配に苦しんでいたが、アメリカ合衆国の独立やフランス革命に刺激を受け、ナポレオン戦争期には事実上の自治体制を確立することに成功していた。しかし、ウィーン体制下で本国の支配が再度強化されると、あらためて各地で積極的な独立運動を展開した。オーストリアの宰相メッテルニヒは、神聖同盟などを利用してこれらの運動を弾圧しようとするが、⑤イギリスとアメリカが独立支持に回ったことで干渉は断念せざるを得ず、以後ウィーン体制は大きく動揺することになる。

一方、独立を達成したラテン＝アメリカ諸国ではあったが、⑥運動を指導したのが主として植民地の白人地主階級であったから、植民地時代からの大土地所有制は、独立後廃止されるどころかむしろ拡大した。先住民の農民や解放奴隷の黒人は地主に隷属し、貧困に苦しんでいた。この点において⑦ラテン＝アメリカ諸国の独立運動に社会革命的性格を見ることは難しい。国内は少数の富裕な大地主・大商人と多くの貧しい民衆に分かれ、また支配階層内部も保守派と自由派が争ったため政治は不安定で、多くの国では軍事的実力者による独裁政権がたびたび登場した。このため資本主義も順調には発達せず、⑧経済的には農産物や鉱産物の輸出に依存せざるを得なかった。

問1. 下線部①に関して、次のイ)～ニ)の文章のうち、1796年から1815年のナポレオン戦争期のフランスについて正しく説明しているものを一つ選べ。

- イ) 1801年にローマ教皇との間で政教和約が締結され、フランス革命以来禁止されていたカトリックが国教として復活した。
- ロ) ナポレオンは1799年ブリュメール18日のクーデタによって統領(執政)政府を倒して総裁政府を成立させ、自ら政権を掌握した。
- ハ) 1806年の大陸封鎖令によってヨーロッパ本土とイギリスとの通商を禁じた結果、ヨーロッパ市場を独占したフランス国内産業は著しく発達した。
- ニ) トラファルガー沖の海戦においてイギリス軍に敗北したナポレオンは失脚し、ブルボン家のルイ18世がフランス王位に就いた。

問2. 下線部②に関して、下にその内容（部分）を挙げたパンフレットの著者で、革命初期の理論的指導者として活躍し、国民議会の成立に尽力した人物は誰か。

「本書の計画はきわめて簡単である。われわれは三つの問題を提出しなければならない。

- 一. 第三身分とは何か。すべてである。
- 二. 政治制度において今日まで何であったか。無。
- 三. 何を要求するか。そこで相当のものになること……（後略）」

問3. 下線部③に関して、議定書の内容について説明した下のイ）～ニ）の文章のうち、誤っているものはどれか。一つ選び、記号で答えよ。

- イ） オランダはオーストリア領ネーデルラント（ベルギー）を合併し、オランダ王国を形成した。
- ロ） ロシアは、ワルシャワ大公国の大部分を併合してポーランド王国を建て、ロシア皇帝がポーランド王を兼ねた。
- ハ） 正統主義の原則にもとづいて、フランス、スペイン、ナポリ、サルデーニャでは旧王家が復位した。
- ニ） ドイツでは、オーストリア、プロイセン以下35の君主国と4自由市からなるドイツ連邦が組織された。

問4. 下線部④に関して、次のイ）～ニ）の文章のうち、ラテン=アメリカ植民地の独立運動について正しく説明しているものを一つ選べ。

- イ） スペイン領ハイチでは、黒人奴隷が反乱を起こし独立運動を開始した。その後ナポレオン軍と戦い、撃退して1804年に独立した。
- ロ） コロンビアは、シモン=ボリバルの援助でスペインに対し独立宣言し、大コロンビア共和国として独立し、ボリビアを併合した。
- ハ） メキシコでは、神父サン=マルティンが先住民や混血層を率いてスペイン人の支配に抵抗し、独立を達成した。
- ニ） ブラジルは、本国ポルトガルの植民地体制に反対するポルトガル王子をいただいて独立帝国となった。

問5. 下線部⑤に関して、イギリスがラテン=アメリカ諸国の独立を支持した背景としては、どのようなことが考えられるか。70字以内で説明せよ。

問6. 下線部⑥に関して、独立運動の中核を担い、独立後は支配階層を構成した植民地生まれのスペイン系白人を何と呼ぶか。

問7. 下線部⑦に関して、植民地地域の独立運動は、地域や時代によって運動の担い手や目的、経過が異なり、その性格は多様である。ラテン=アメリカ諸国とほぼ同時期にギリシアでも独立が達成されたが、ギリシアに始まるトルコ支配下諸民族の独立運動にはどのような特色が見られるか、運動の担い手や経過という点から考えて70字以内で簡潔に説明せよ。

問8. 下線部⑧に関して、単一もしくは少数の一次産品・工業原料の生産を高度に特化させた経済構造のことを何というか。

【3】

《ヨーロッパ 1848 年》★★

次の文章を読み、下記の設問〔A〕,〔B〕,〔C〕に答えなさい。

近代ヨーロッパ史において、1848年、49年ほど劇的な変化を経験した時期は少ない。フランスでは、大金融資本家、大地主などを中心とした七月王政への中小資本家、労働者の不満は、(a) 内閣の改革宴会禁止の措置に対して、1848年2月下旬ついに爆発した。国王(b) は亡命し、(1)臨時政府が樹立された。翌月中旬にはウィーンで暴動が発生し、ナポレオン没落後のヨーロッパ秩序の演出者であった(c) が追放された。同じころベルリンでは、市民、労働者の反乱の前に国王は憲法の制定を約束し、自由主義的な(d) 内閣が発足した。多民族複合国家オーストリアの本拠地での混乱は、その支配下にあった諸民族の民族独立運動を高揚させた。北イタリアでは(e) 暴動をはじめとする独立運動、ハンガリーでは(f) 人の運動、バーメンでは(g) 人の反乱と枚挙に暇がない。ヨーロッパ中央部において、これほど急速かつ広範に拡がった変革の波は、歴史上類を見ないのである。まさに「(イ)」と呼ばれるにふさわしい状況が現出したのである。

しかし、(2)この現象の終息も急であった。パリでの革命から18カ月以内に、革命運動によって打倒された体制のうち一つを除いてはもとに復した。1848年中にベルリンでは、立憲議会が解散させられ、国王による欽定憲法制度への道が定まった。ウィーンでも、バーメンでも反乱は鎮圧された。全ドイツの代表者が集まって統一問題を議論していた(ロ) も、(3)長い論議の末にまとめた憲法とこれに基づく帝位をプロイセン国王に拒否され、翌1849年には解散した。北イタリアの反オーストリア独立運動に乗じてイタリア統一へと動いたサルデーニャ王(h) は、態勢を立て直したオーストリア軍に敗れた。また、(4) (i) の樹立したロマ共和国もまもなく打倒された。(j) に指導されたハンガリーの独立政府も同様の運命を辿った。

それではこの変革の嵐は、歴史の束の間の気紛れにすぎなかったのであろうか。決してそうではなかった。いわゆる1848年の諸革命は、前世紀の末に起源をもつ一連の政治革命運動の一つの帰結であったとともに、その後の時代を方向づける諸要素を内に含んだ、いわばヨーロッパ史の転換点であった。すなわち、それらは、ヨーロッパの中央部で市民階級が革命的手段にうったえて旧体制に立ち向かった最後のものではあったと同時に、その後の社会が直面した諸問題－資本と労働との対立、さらには民族主義－の存在とその重要性を認識させるものでもあった。封建的な旧体制はこの後も命脈は保つものもはや支配的ではなくなった。それとの闘争にかわって、(5)社会秩序を維持しながらの改革、国民国家建設が課題として追求されるようになった。かつては大衆による革命の同義語ともみなされた普通選挙に基づく民主主義も、秩序維持のための有効な道具となり得ることを(6)新しい支配者は気づくようにさえた。1848年までの時期を市民革命と産業革命の二重革命の時代と特徴づけたイギリスの歴史家ホブズボームは、この後1875年までの時期について(7)「産業革命が政治革命をのみ込んでしまった」(E. J. ホブズボーム『資本の時代』)と表現しているが、妥当な言葉と言えよう。

〔設問〕

〔A〕（ a ）～（ j ）に最も適当と思われる語を下の語群から選び、その番号を記入しなさい。

《語群》

11. ビスマルク
12. ブオナロッチェ
13. カルロ=アルベルト
14. シヤルル 10 世
15. チェック
16. クロアチア
17. ガリバルディ
18. ギゾー
19. カンプハウゼン
20. コシュート
21. ルイ=フィリップ
22. マジャール
23. マッツイーニ
24. メッテルニッヒ
25. ミラノ
26. パラツキー
27. ポーランド
28. タレーラン
29. ティエール
30. トリノ
31. ヴィットーリオ=エマヌエーレ 2 世

〔B〕（ イ ）、（ ロ ）に最も適当な語句を記入しなさい。

〔C〕下線部(1)～(7)に対応する設問の答を記入しなさい。

- (1) (a)この政府に参画した著名な社会主義者の名前と、(b)彼が委員長となった政府の部門を答えなさい。
- (2) フランスではこの転機が、1848年4月に訪れた。どのようなできごとか、15字以内で解答しなさい。
- (3) ここでの最大の論争点となったのは何か、25字以内で答えなさい。
- (4) 彼が1831年に亡命先で結成した秘密結社の名称を答えなさい。
- (5) なぜこのことが必要であると意識されるようになったのか、30字以内で説明しなさい。
- (6) この例として最もふさわしいと思われる当時の人の名前をあげなさい。
- (7) どのようなことを意味していると解釈すべきか、40字以内で説明しなさい。

（慶大商【1】・1992年）

【4】

《ルイ=フィリップ》★★

つぎの文章（A～E）は、1830年の七月革命の結果「フランス人の王」となったルイ=フィリップに関するものである。よく読んで以下の設問に答えなさい。

A

オルレアン家の5代目にあたるルイ=フィリップ=ジョゼフは、早くから啓蒙思想に心酔し、子どもたちの教育をジャンリス夫人に委ねた。彼女は、尊敬する（ 1 ）の著作、『エミール』の教育法を忠実に実践する。大革命が始まるとオルレアン公は絶対王政に反旗を翻して、（ 2 ）とともに「貴族による革命」を推進した。ルイ=フィリップはその長男で、バスチーユ襲撃時にはまだ15歳にすぎなかったが、開明的な父の影響を受けて、翌1790年にはジャコバン・クラブのメンバーとなった。92年に戦争が勃発すると、ルイ=フィリップは、デュームーリエ將軍の指揮下にヴァルミーやジェマップにおいて戦い、勝利を取めた。その間、父は(a)国民公会の議員となり、「平等公」と呼ばれて国王の処刑に賛成票を投ずる。しかし93年の春、息子のルイ=フィリップがデュームーリエ將軍とともにオーストリア軍に投降したため、「平等公」は同年11月、裏切り者の父としてギロチンで処刑された。

B

ルイ=フィリップは、祖国に刃を向けオーストリア軍で指揮をとることを断固拒否して、放浪の旅に出る。一時期スイスの学校で教職に就き、その後、北欧と北極圏を旅したのち、1796年、母の亡命先であるアメリカに渡った。（ 3 ）が、弟2人の釈放条件としてアメリカでの亡命生活を要求したからである。(b)合衆国の首都に居を定めた彼は、弟たちをそこに迎えて帰国できる日を待つ。ルイ=フィリップは1800年にヨーロッパに戻り、ロンドンでアルトワ伯と会い、ブルボン家に忠誠を誓う。1809年に彼はパレルモで、シチリア国王フェルディナンドの娘と結婚する。パリでは（ 4 ）にナポレオンが皇帝に即位し、第一帝政が始まっていた。

C

1814年、ナポレオンの没落とともにフランスに戻った彼は、オルレアン家の莫大な財産を取り戻したが、国王（ 5 ）からは信用されなかった。百日天下のときにロンドンに逃れたあと、反動の嵐が吹きすさぶ(c)ウィーン会議後の母国を避けて、家族とともにしばらくイギリスで暮らした。1817年に帰国してからも慎重に政界から離れて復古王政の行方を静観する。財産管理にいそむ傍ら、パレ=ロワイヤルの豪勢な私邸に立憲王党派や自由主義的ブルジョワの銀行家と新聞人、さらには反体制的芸術家などを招いてしだいに人気を高めていく。1824年に（ 6 ）が王位を継いで、強引な反動政策を打ち出すと、ブルボン王政は破滅の道を直進する。国王は1830年7月、国民の不満をそらすために（ 7 ）に出兵すると同時に、厳しい言論統制、反対派が多数を占める未召集議会の解散、さらに選挙法改定と9月選挙を予告する「七月勅令」を発した。

D

言論弾圧に対して、まずジャーナリストが立ち上がる。1830年7月26日、『ナショナル』紙に集まった新聞編集者たちは、(8)を中心に抗議文を起草して政府の合法性を否定し、市民に反抗を呼びかけた。翌日、労働者と学生はバリケードを築き始め、28日には軍隊を相手に市街戦を展開したが、29日には政府軍の2連隊が革命側に加担したために、パリは民衆の手に落ちた。この(d)七月革命の「光栄の3日間」を描いた(9)の絵画、『民衆を導く自由の女神』は、あまりにも有名である。しかし革命の成果をかすめ取ったのは大銀行家ラフィットや(8)を中心とする自由主義政治家であった。「パリ市委員会」を組織した彼らはブルボン支配の終焉を宣言し、共和政を目ざす動きを抑えて、ルイ=フィリップを国王に迎え、七月王政を成立させた。ルイ=フィリップはこの間、まったく動かずにひたすら待ち、即位の要請には渋々応じる余裕を見せた。

E

新国王ルイ=フィリップは、七月王政樹立に功績のあったラフィットを初代首相にして改革への期待を抱かせたものの、すぐに保守化していく。彼は外交面ではイギリスとの協調を過度に重んじたが、イギリス風の立憲君主たることには満足せず、自ら「君臨しかつ統治する」ことを望んだ。とくに1840年以降は、30年代に文相を務めた歴史家(10)の行動力を信頼し、ますます反動化していくこの保守政治家に自らの意志の実行者を見出した。いまや即位前の慎重さをかなぐり捨てて、彼は(10)内閣とともに、労働運動はもとより自由主義的な諸改革を目ざす社会運動を弾圧した。遅れていたフランスの産業革命が本格的に進展したのは、この40年代以降であるが、労働者や職人はまったくの無権利・無保護状態におかれていたので、労働争議は頻発し、やがてストライキの大波が全国に広がった。マルクス・エンゲルスの(e)『共産党宣言』が発表されたのは、選挙制度の改正を求める「改革宴会」が二月革命に発展して、ルイ=フィリップがロンドンに逃亡する前夜であった。彼は、1850年8月、ロンドン西南のクレアモント城でこの世を去った。

設問1 空欄(1～10)を埋めるのにもっとも適切な語句を、対応する以下の語群のなかから選びなさい。

- (1) ① ヴォルテール ② ダランベール ③ デイドロ ④ ルソー
⑤ ロック
- (2) ① シェイエスとバルナーヴ ② ダントンとマラー
③ プリッソーとコンドルセ ④ ミラボーとラ=ファイエット
⑤ ロベスピエールとサン=ジュスト
- (3) ① 公安委員会 ② 立法議会 ③ 総裁政府 ④ 統領政府
⑤ 第一帝政政府
- (4) ① 1799年 ② 1802年 ③ 1804年 ④ 1805年 ⑤ 1807年
- (5) ① シャルル9世 ② シャルル10世 ③ フランソワ1世 ④ ルイ16世
⑤ ルイ18世

- (6) ① シャルル9世 ② シャルル10世 ③ フランソワ1世 ④ ルイ16世
⑤ ルイ18世
- (7) ① アルジェリア ② ヴェトナム ③ エジプト ④ チュニジア
⑤ モロッコ
- (8) ① ギゾー ② ティエール ③ ユーゴー ④ ラマルティース
⑤ ラ=ファイエット
- (9) ① アングル ② クールベ ③ コロー ④ ドーミエ
⑤ ドラクロワ
- (10) ① ギゾー ② ティエール ③ ユーゴー ④ ラマルティース
⑤ ラ=ファイエット

設問2 下線部(a)について。国民公会で山岳派を指導し、公安委員会の実権を握ったのは、どのふたりか。1つ選びなさい。

- ① シュエイエスとバルナーヴ ② ダントンとマラー
③ ブリッソーとコンドルセ ④ ミラボーとラ=ファイエット
⑤ ロベスピエールとサン=ジュスト

設問3 下線部(b)について。当時の合衆国の首都はつぎのどの都市であったか。1つ選びなさい。

- ① ニューヨーク ② フィラデルフィア ③ プリマス ④ ボストン
⑤ ワシントン

設問4 下線部(c)について。ウィーン会議に関するつぎの文章のうち、誤っているものはどれか。1つ選びなさい。

- ① この会議では、参加国の利害対立により審議がなかなか進展せず、ナポレオンの復位宣言を契機にようやくまとまりを見せた。
- ② この会議でフランス国王の候補としてルイ=フィリップの名を挙げたのは、ロシア皇帝アレクサンドル1世である。
- ③ この会議で指導的な役割を果たしたのは、当時オーストリアの外相であったメッテルニヒである。
- ④ この会議で、すべてをフランス革命前の状態に戻すべきであるという「正統主義」を主張したのは、フランス代表のタレーランである。
- ⑤ この会議の結果、ブルボン王家が復活した国は、フランスとスペインだけである。

設問5 下線部(d)について。七月革命の影響に関するつぎの文章のうち、正しいものはどれか。1つ選びなさい。

- ① ドイツ各地で憲法制定の要求をかかげて反乱が発生したので、ドイツ連邦議会はこの要求の実現を約束した。
- ② ベルギーでは、ブリュッセルの武装蜂起が「9月の4日間」の戦闘を経て、オランダからの独立を宣言し、翌年共和政を発足させた。
- ③ ポーランドでは、ワルシャワの武装蜂起が革命政権を樹立したが、ロシア軍に鎮圧されたあと、自治権が厳しく制限され、この国は事実上ロシアの属州になった。
- ④ ハンガリーの独立運動は、議会に新憲法を制定させ、コッシュートの臨時革命政権を樹立させた。
- ⑤ イタリアではミラノ市民とヴェネツィア市民が同時に武装蜂起し、市街戦によりオーストリア軍を撃退して、共和国を宣言した。

設問6 下線部(e)について。つぎの文章のうち、『共産党宣言』の一節はどれか。1つ選びなさい。

- ① 人間は、自由かつ権利において平等なものとして生まれ、また存在する。社会的な差別は、共同の利益にもとづいてのみ、設けることができる。
- ② 同一人物あるいは同一の執政者団体の手中において、立法権が執行権と結合しているとき、由はまったく存在しない。なぜならば、ある君主とかある元老院とかが、圧政的な法をつくった上、自らそれを執行する恐れが多分に存するからである。
- ③ 人間は生まれながらにして自由でありながら、いたるところで鎖につながれている。他の人々の主人だと思いこんでいる者も、実は彼ら以上に奴隷なのだ。
- ④ 諸君らには冒瀆と見える「財産とは窃盗である」という定義は、もしわれわれが先入観を捨てて正しく理解することができたならば、落雷からわれわれを守ってくれる避雷針の役割を果たしてくれるであろう。
- ⑤ 今日まであらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である。
自由民と奴隷、都市貴族と平民、領主と農奴、ギルドの親方と職人、要するに圧制者と被圧制者はつねにたがいに対立して、ときには暗々のうちに、ときには公然と、不断の闘争をおこなってきた。

(中央大法【3】・2005年)

体験授業をご受講いただく皆さんへ

体験授業をお申し込みいただきありがとうございます。

Z会の教室の授業は、学力を効果的に上げていくためのカリキュラム・内容となっております。次回以降もぜひ継続して受講することをおすすめします。

《体験授業後の流れ》

お申し込み方法

引き続き継続して受講される場合は、各教室窓口・お電話でお申し込みが可能です。
※体験授業終了直後に窓口で申し込んでお帰りになることもできます。
※認定が必要な講座をご希望の方はテストを受験していただく場合があります。
※予習が必要な講座は次回までの予習がありますので、余裕を持ってお申し込みください。
※本科授業は、「クラス授業」「映像授業」が選べます。
※映像授業の体験も承ります。一部の講座では映像授業のご用意がありません。予めご了承ください。

通話料 無料 **0120-2828-76** 月曜日～土曜日 12:00～20:00
(休室日を除く)

各教室電話番号	御茶ノ水教室 03-5296-2828	池袋教室 03-5985-2828
月曜日～土曜日 14:00～21:00 (休室日を除く)	渋谷教室 03-5774-2828	横浜教室 045-313-2828
	新宿教室 03-5304-2828	葛西教室 03-5878-0844

お申し込み後の流れ

お申し込みから1週間以内に手続書類(入会書類、お支払いについて、会員証など)をお送りします。

※受講料のお支払い期日が次回授業よりも後の場合でも、次回授業へのご参加は可能です。
※体験授業後にご受講いただく場合、「Z会の教室」では「月度」単位で受講料を請求させていただいているため、体験授業分も受講料をご請求する場合があります。くわしくは教室スタッフまでお問い合わせください。

お申し込み後、テキストを各教室窓口にてお受け取りください。

※葛西教室にて高1・高2講座・受験講座、Z会進学教室大学受験部立川教室にて高1・高2・受験生講座を開講しております。

講座選択に迷ったら…

学習相談は随時承っています。お電話での相談も可能です。

受講に際して不明点、不安な点がある方は、各教室の窓口、または上記番号までお気軽にお問い合わせください。

Z会の教室の受講サポート — 万全のシステムで効果的な学習をサポートします —

1. 講師への質問

授業前後の時間や休み時間を利用して、担当講師に直接質問をすることができます。疑問点をそのままにすることなく、その場で解消することができます。

2. 振替受講

本科のクラス授業で欠席する回の授業を、同一週・同一講座の他のクラスで振替受講することができます。他教室への振替、映像授業(教室・自宅での受講)への振替も可能です。前日までに各教室窓口、お電話にてお申し出下さい。

※振替手続は一週前の月曜から可能です。

3. 進路・学習・入試相談

各教室の学習アドバイザーが皆さんのご相談を随時承っています。

4. 自習室

本科生の方は休室日を除いて、全教室の自習室をいつでもご利用いただけます。